日本ゲノム微生物学会　2025年第1回評議員会　議事次第

日　時：　2025年3月17日（月）　18：30～20：00

会　場：　かずさアカデミアホール　会議室101

審議事項

【第 1 号議案　2024 年事業報告】

【第 2 号議案　2024 年学会収支決算】

【第 3 号議案　2025 年事業計画】

【第 4 号議案　2025 年学会予算案】

【第 5 号議案　第 20 回年会（2026 年）について】

【第 6 号議案　研究発表に関する指針案等について】

報告事項

1. 第 18 回年会（2024 年・かずさアカデミアホール）報告

2. 第 19 回年会（2025 年・かずさアカデミアホール）報告

3. 会費未納会員への対応

日本ゲノム微生物学会　2025年第1回評議員会　議案書

審議事項

【第 1 号議案　2024 年事業報告】

（1）　会員数及び会費納入状況

◆会員数変動（2025/02/26現在）（括弧内は会費納入者数、賛助会員については納入口数）

年	一般会員	学生会員	正会員合計		賛助会員	機関会員
2007 年	231（231）	61（61）	292（292）		37（52）	—
2008 年	277（251）	79（46）	356（296）		35（46）	2（2）
2009 年	331（282）	105（56）	436（338）		33（44）	2（2）
2010 年	338（275）	102（43）	430（318）		31（32）	2（2）
2011 年	361（277）	106（43）	467（320）		29（36）	2（2）
2012 年	378（278）	137（60）	515（338）		29（32）	2（2）
2013 年	334（303）	92（61）	426（364）		19（29）	2（2）
2014 年	343（318）	112（82）	455（400）		19（29）	2（2）
2015 年	352（321）	117（70）	469（391）		17（23）	2（2）
2016 年	382（332）	153（84）	535（412）		17（22）	2（1）
2017 年	393（328）	164（73）	547（401）		14（18）	1（1）
2018 年	377（319）	140（77）	534（396）		13（13）	1（1）
2019 年	368（326）	140（87）	508（413）		13（12）	1（1）
2020 年	343（329）	146（94）	489（417）		10　（7）	1（1）
2021 年	355（321）	165（90）	520（404）		12（10）	1（1）
2022 年	360（311）	163（88）	523（399）		10　（9）	1（1）
2023 年	354（303）	167（75）	513（378）		8　（8）	1（1）
2024 年	348（266）	174（72）	522（336）		8　（7）	1（1）
2025 年	348（150）	166（39）	514（189）		7　（0）	1（0）

◆会費納入状況（2025/02/26現在）

未納年度	一般会員 未納者数	学生会員 未納者数	賛助会員 未納者数	機関会員 未納者数
2023-2025 年未納	10	34	0	0
2024-2025 年未納	64	74	1	0
2025 年未納	121	51	7	1

(2)　2024年年会の開催

2024年3月12日（火）～14日（木)、かずさアカデミアホールで開催した。

(3)　日本ゲノム微生物学会ニュースレターの発行

ニュースレター29 号、30 号を発行した。

2024 年 6 月 24 日　29 号

2024 年 12 月 20 日 30 号

(4)　2025年日本ゲノム微生物学会研究奨励賞・若手賞候補者の募集・選考

応募者　　奨励賞　３名　若手賞　２名

選考委員　　跡見晴幸、インベイウェン、日原由香子、本郷裕一、矢原耕史会員

受賞者　　奨励賞　倉田　竜明（理化学研究所）

大林　龍胆（東京都立大学）

若手賞　富永　賢人（東京大学）

資料１（選考結果報告）

奨励賞、若手賞の募集要項に関する審査委員会からのご意見をいただきました。第６号議案にて取り上げます。

(5)　若手の会活動

１．若手の会の開催（第16回）

会　　場：ホテルシーパレスリゾート（愛知県豊橋市）

実 施 日：2024年9月23～24日

参加人数：21名

世話人会：前田　海成（東京工業大学)、黒川　真臣（国立遺伝学研究所)、
富永　賢人（東京大学)、原(和才)　沙和（農研機構)、
西野　聡(東京大学)、小髙　優人(国立感染症研究所／東京都立大学)、
辻　奈緒子（京都産業大学）

本会から10万円の支援をいただき、全額をゲノム微生物学会若手の会からの参加学生（13名）の参加費および交通費補助に充てた。

２．オンラインセミナーの開催

第1回　2024年8月19日(月)

第2回　2024年10月22日（月）

３．シンポジウム「ゲノムを制するものは微生物学を制する？！」

2024年10月29日（火）　第37回日本微生物生態学会にて開催

(6)　学会ホームページの活用

・ 会員からの情報で国内のシンポジウム、求人等の情報を提供した。
（2024年3月以降、2025年3月5日現在）

学会、シンポジウム、講習会情報 11件
求人情報 9件
課題公募情報 14件
研究助成 3件
その他 6件
合計43件

事務局からのお知らせ 7件

・ 学会情報、年会案内、企業バナー広告掲載を行った。
・ ニュースレターの紹介を行った。
・ 研究奨励賞、若手賞の募集を行った。

(7) 男女共同参画への取り組み(2024年年会)
・託児サポートに対して 1 件の申し込みがあった。
時間あたりの単価：300円/時間
利用予定時間：9時間

【第 2 号議案 2024 年学会収支決算】
2024年収支決算書、財産目録、貸借対照表（資料2）
監査報告書 （資料3）

【第 3 号議案 2025 年事業計画】
(1) 日本ゲノム微生物学会ニュースレターの発行
2025 年は、 31 号（春号; 7 月頃)、32 号(秋号; 12 月頃)を発行予定。

(2) 2026年日本ゲノム微生物学会研究奨励賞・若手賞選考
選考委員：例年通り次回年会に合わせ選考委員の委嘱を行う

(3) 若手の会の開催（第17回）
世話人会：前田 海成（東京工業大学)、黒川 真臣（国立遺伝学研究所)、
富永 賢人（東京大学)、原(和才) 沙和（農研機構)、
西野 聡(東京大学)、小髙 優人(国立感染症研究所／東京都立大学)、
辻 奈緒子（京都産業大学)、河野 恵美（東京都立大学）
詳細は未定
若手の会からの要望書（次々年度からの予算増額について）(資料4)

(4) 学会ホームページの活用
・ 学会活動の報告や紹介の場とする。
・ 企業バナー広告掲載を賛助会員の特典とし、新規賛助会員の入会を促す。

・ 昨年同様、ニュースレターの紹介を継続し、日本ゲノム微生物学会への注目を喚起する。
・ 学会公式Xアカウントを開設し、主にホームページ更新の周知を行う。学会員のフォロワーを増やし、学会活動を一般にも紹介する。

(5)　男女共同参画への取り組み

男女共同参画への取り組みとして、年会における託児サポートやアンケートなど、これまでの取り組みを踏襲します。その上で、第七期 会長より、「本会を新たな微生物ゲノムに関する研究を萌芽できる場所にしていきたい」という思いを伺いました。そのためには、様々な微生物を実験生物として用いる研究者や学生が、年会をはじめとした学会イベントにこれまで以上に参画したいと思う環境づくりが重要だと考えます。男女共同参画への取り組みの中では、特に、様々な事情で年会に参加できない学会員に対するサポートを検討していきます。

直近の課題
・託児サポートの周知（利用者が少ない）
・介護補助のサポート（育児と同じくらい介護の問題も予想されるため）

実施事項
男女共同参画に関するアンケートの実施
2025年度年会でランチョンセミナーを開催

その他
アンケートの結果について
男女共同参画の名称変更について

(6)　名誉会員の推薦　（資料5）

(7)　その他

- 「微生物ウィーク2025」のジョイントシンポジウムについて
  東京大学微生物科学イノベーション連携研究機構（CRIIM）からの依頼を受け「微生物ウィーク2025」のジョイントシンポジウムシリーズの一つとして、日本細菌学会と協力して、2時間枠のシンポジウムを8月1日の午前に開催予定。企画を検討中（計画中）：ゲノム微生物学会側は大島、宮腰委員（広報幹事）が対応中

【第 4 号議案　2025 年学会予算案】
2025年収支予算案（資料6）

【第 5 号議案　第 20 回年会（2026 年）について】
2026 年 3 月 4 日～6 日予定
年会代表は布浦委員が担当

【第 6 号議案　研究発表に関する指針案等について】
- 奨励賞・若手賞表彰基準見直しについて（若手賞の応募資格（33 歳未満）について）
- 日本ゲノム微生物学会の研究発表に関する指針(案)について　（資料 7）
  今年度の年会での使用は持ち回り評議委員会で承認。来年度以降も本指針を引き続き使用するか？
- 国立遺伝学研究所における NBRP 大腸菌・枯草菌分譲事業継続のお願い（要望）について　（資料 8）
- 国際雑誌 JGAM と奨励会について（資料 9）

- 賛助会員・機関会員数の減少について

【報告事項】
(1)　第 18 回年会（2024 年・かずさアカデミアホール開催）報告（資料 10）

(2)　第 19 回年会（2025 年・かずさアカデミアホール開催）報告

(3)　持ち回り委員会での審議事項
1. 日本ゲノム微生物学会の研究発表に関する指針(案)　（資料 7）
2. 名誉会員の推薦　（資料 5）
3. 日本ゲノム微生物学会研究奨励賞、若手賞の審査員の推薦について
4. 男女共同参画の活動に関して
5. 東京農業大学の生物資源ゲノム解析センターの３期目の申請に関する要望書(資料 11)
（解析センターは無事再認定されたとのご報告をいただきました。）

(4)　会費未納会員への対応（資料 12）
2012年の評議員会における「会費を2年連続で滞納している会員については、会への参加継続の意向を確認するための措置をとり、本人の意向が確認できない場合には、会則第9条にのっとり会長の判断により退会扱いとする」という確認に基づき、昨年12月に本人に通知。

	2 年間滞納 (2023-2024)
一般会員（うち連絡先不明）	10(0)
学生会員（うち連絡先不明）	34(10)
合計　　（うち連絡先不明）	44(10)

資料 1

2025 年 2 月 15 日

2025 年度 日本ゲノム微生物学会 若手賞･奨励賞選考委員会報告書

大島　拓日本ゲノム微生物学会会長より指名のあった選考委員 5 名は、2025 年度　日本ゲノム微生物学会　若手賞・奨励賞選考を行いその結果を報告する。

１　選考経緯

日本ゲノム微生物学会では、第 19 回　研究奨励賞・若手賞を募集し、奨励賞に 3 名の応募があった。若手賞には 2 名の応募があった。

1 月 29 日に選考委員会をオンラインで開催し、跡見委員を委員長として選考委員会を開催した。昨年度の選考方針を引き継ぎ、研究奨励賞では、ゲノム微生物学研究へのインパクト、研究の独自性・創造性、研究業績、及び学会への貢献度、について評価して、受賞者を決定することにした。若手賞については研究の独自性や主体性、研究業績、学会への貢献度と今後への期待度、について評価して、受賞者を決定することにした。

応募書類をもとに、各応募者について選考を実施した結果、最終的に研究奨励賞 2 名、若手賞 1 名を選出した。

奨励賞　倉田　竜明（くらた　たつあき）会員　　推薦者　加藤　潤一　会員
奨励賞　大林　龍胆（おおばやし　りゅうどう）会員　推薦者　渡辺　智　　会員

若手賞　富永　賢人（とみなが　けんと）会員　　自己推薦

２．選考理由

奨励賞　倉田　竜明　会員

首都大学東京大学院理工学研究科生命科学専攻在学時 (2013年) に本学会に入会し、後期博士課程の大学院生であった2014年に初めての研究発表 (口頭およびポスター) を行った。翌年の2015年にはポスター発表でポスター賞「博士課程」を受賞している。以後も2024年までに６回の学会発表を行っている。海外留学期間中 (2019-2024) にも３回発表している。また第11回の日本ゲノム微生物学会・若手の会を世話人として運営した。さらに本学会ニュースレターにも２度寄稿し、研究成果や留学生活の様子を共有するなど、学会員にも積極的に情報発信してきた。以上のとおり、倉田会員の本学会への貢献は高いものである。

倉田会員は修士課程では大腸菌の未アノテーション遺伝子*morA*にコードされる機能性5'-UTR の発見に関する研究を展開し、論文発表している。その後、博士課程においては、大腸菌YqgF タンパク質が果たす16S rRNA プロセシングの

役割に関して研究を進め、２つの論文にその成果を発表している。2019年からは博士研究員としてスウェーデンに留学し、「TA システムを介したRNA 修飾とファージ感染時の翻訳抑制」に関する研究を主体的に展開し、*Panacea*と名付けたDUF4065タンパク質が構造的・機能的に異なる多様なtoxinに対してantitoxin効果を示すことやRelA-SpoT homolog toxinがtRNAの3'末端をピロリン酸化することにより翻訳阻害を引き起こすことなど、優れた研究成果を挙げている。

こうした一連の研究成果は、equal contributionを含めると筆頭著者としてすでに９報の論文として国際誌に発表している。以上のように、本学会への貢献度、研究の独創性と推進能力、業績、そして将来性を総合的に考慮し、将来有望な研究者として奨励賞にふさわしいと委員全員が判断した。

奨励賞　大林　龍胆　会員

東京農業大学大学院農学研究科バイオサイエンス専攻博士課程在籍中（2011年-2014年）に３度ポスター発表を行っている。博士課程修了後、研究員や助教などとして東京農業大学・国立遺伝学研究所・理化学研究所・東京工業大学・静岡大学と多くの機関で研究に従事しているが、現在までに７度口頭発表を行うなど、継続的に本学会での積極的な情報発信を行っている。その間、2016年には本学会の若手奨励賞を受賞している。また2017-2023年は若手会の世話人を、特に2018年には世話人代表を務めている。2021-2023年は評議員として、本学会の運営に貢献している。

大林会員は一貫してシアノバクテリアを対象に、そのDNA複製機構に関する研究を展開してきた。東京農業大学大学院生の間はシアノバクテリアのDNA複製が光合成の電子伝達に依存することを見いだし、論文としてまとめている。その後、同大学の博士研究員として、それまでバクテリアにおけるDNA複製がDnaAに依存していると考えられてきた定説を覆し、シアノバクテリアではDNA複製がDnaAに依存しないことを示し、バクテリアにおける染色体複製機構の多様性を明らかにした。国立遺伝学研究所ではシアノバクテリアにおける細胞の大きさと染色体のコピー数に正の相関があることを見いだし、その制御機構を明らかにした。最近ではシアノバクテリアを用いた物質生産への応用も目指し、アラーモンを介した代謝制御機構を明らかにしている。

こうした一連の研究成果はequal contributionを含めると筆頭著者としてすでに8報の研究論文を国際誌に発表している。加えて2報の論文では責任著者を務め、すでに独立した研究者としてシアノバクテリア研究に大きく貢献している。以上のように、学会への貢献度、研究の独創性、業績、そして将来性を総合的に考慮し、将来有望な研究者として奨励賞にふさわしいと委員全員が判断した。

若手賞　富永　賢人　会員

首都大学東京都市教養学部修士課程在籍中（2016年）に入会し、同年に口頭発表を行った。京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻博士課程在籍中には2019年、2020年（年会中止）と発表している。東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻特任研究員として３度口頭発表を行っている。また2023年から現在に至るまで若手会の世話人を務めており、本学会の活性化に貢献している。

富永会員は首都大学修士課程まで大腸菌の酸化ストレス耐性に関与するTAシステムに関する研究に従事し、京都大学博士課程では海洋微生物とそれらに感染するウイルスを対象に、実験科学・フィールド調査・バイオインフォマティクス解析などを駆使してそれらの遺伝子機能や生態の理解に貢献する成果を挙げてきた。また東京大学では特任研究員として、バイオインフォマティクスを利用して、DNA複製の開始に必要な既知のhelicase loaderを持たないVibrio科細菌に偏在する遺伝子を探索することにより、新型のhelicase loaderを同定するなど、多くの成果を挙げている。

こうした一連の研究成果は筆頭著者としてすでに4報の研究論文を国際誌に発表している。加えて責任著者を務めた論文もあり、主導的に研究を推進できることも示されている。以上のように、学会への貢献度、研究の独創性・主体性、業績、そして今後への期待を総合的に考慮し、将来有望な研究者として若手賞にふさわしいと委員全員が判断した。

本郷 裕一
矢原耕史
日原 由香子
應　　蓓文
選考委員長　跡見　晴幸

日本ゲノム微生物学会　2024年度収支決算書

2024年1月1日～12月31日

■ 収入の部

（単位：円）

科目	2024年度予算額	2024年度決算額	決算額-予算額	備考
1. 会費収入	**1,884,000**	**1,711,000**	**-173,000**	
（1）一般会員	1,530,000	1,325,000	-205,000	5,000円×265名
（2）学生会員	84,000	70,000	-14,000	1,000円×70名
（3）賛助会員	240,000	240,000	0	30,000円×8口
（4）機関会員	30,000	30,000	0	30,000円×1団体
（5）前受金	0	46,000	46,000	一般会員@¥5,000円×9名、学生会員@1,000円×1名
2. 雑収入	**586,894**	**1,358,547**	**771,653**	
（1）利息	30	151	121	
（2）その他	586,864	1,358,396	771,532	第17回年会残金586,864円、第18回年会残金771,532円
当期収入合計	**2,470,894**	**3,069,547**	**598,653**	
前年度繰越金	**5,500,423**	**5,500,423**	**0**	
本年度収入合計	**7,971,317**	**8,569,970**	**598,653**	

■ 支出の部

科目	2024年度予算額	2024年度決算額	決算額-予算額	備考
1. 事業費	**1,480,000**	**1,160,359**	**-319,641**	
（1）年会援助金	1,000,000	1,000,000	0	
（2）研究奨励賞経費	50,000	46,970	-3,030	記念品費
（3）若手の会援助金	100,000	100,000	0	
（4）会報発行費	30,000	10,989	-19,011	ニュースレター編集用 スラックPro年間契約
（5）男女共同参画費用	200,000	2,400	-197,600	第18回年会託児サポート費用
（6）HP作成費	100,000	0	-100,000	
（7）評議員選挙費用	0	0	0	
2. 管理費	**964,510**	**888,290**	**-76,220**	
（1）事務委託費	484,110	483,120	-990	1～12月分
（2）会議費	30,000	8,890	-21,110	評議員会・総会資料作成費
（3）HP管理費	290,400	292,050	1,650	1～12月分、ドメイン管理費
（4）一般管理費 ① 会費督促費	30,000	5,916	-24,084	
② 旅費	100,000	81,836	-18,164	第18回年会事務局出席交通費
③ 通信費：年会用事務局通信費	5,000	0	-5,000	
④ 通信費：学会事務局通信費	5,000	2,080	-2,920	
⑤ 消耗品費	5,000	3,673	-1,327	
⑥ 振込手数料	15,000	10,725	-4,275	振込手数料、郵便通知料金
3. その他	**300,000**	**0**	**-300,000**	
当期支出合計	**2,744,510**	**2,048,649**	**-695,861**	
次年度繰越金	**5,226,807**	**6,521,321**	**1,294,514**	
本年度支出合計	**7,971,317**	**8,569,970**	**598,653**	

日本ゲノム微生物学会　貸借対照表

2024年12月31日現在

借　　方		貸　　方	
勘定科目	**金額**	**勘定科目**	**金額**
流動資産			
郵便振替	4,794,231		
普通預金	1,365,856		
郵便貯金	361,234	**次年度繰越金**	6,521,321
		前年度繰越金	5,314,030
		本年度収支差額	1,207,291
合　計	**6,521,321**	**合　計**	**6,521,321**

日本ゲノム微生物学会　財産目録

資産の部　　2024年12月31日現在

勘定科目	摘　要	金額
郵便振替	飯田橋郵便局 00120-2-742359	4,794,231
普通預金	三井住友銀行飯田橋支店（普）6842379	1,365,856
郵便貯金	飯田橋郵便局 008支店（普）9795781	361,234
合計		**6,521,321**

資料3-1

監　査　報　告　書

日本ゲノム微生物学会
会長　大島　拓　殿

日本ゲノム微生物学会の2024年における会計報告書は
監査の結果、適正であると認められます。

令和7年3月3日

会計監査 阿部 貴志

資料3-2

監　査　報　告　書

日本ゲノム微生物学会
会長　大島　拓　殿

日本ゲノム微生物学会の2024年における会計報告書は
監査の結果、適正であると認められます。

令和7年3月3日

会計監査　馬場知哉　印

資料 4

2025年 3月17日

日本ゲノム微生物学会若手の会に対する
支援に関する要望書

1. 要望概要

日本ゲノム微生物学会若手の会援助金見直しのお願い（要望）

2. 背景・理由

日本ゲノム微生物学会若手の会は「研究分野・所属などを越えて、微生物学研究の次世代を担う若手研究者の交流と情報交換の場」であることを目的として活動しております。この趣旨から、若手の会への参加呼びかけは、本会の参加者にとどまらず他の微生物関連集会の参加者に対しても実施しています。一方で、分野を横断した若手間・学生間の繋がりによって、我々世話人を含む次世代が成長し結果として本会の発展に貢献することも目的としております。実際に、本若手の会が主催する宿泊型研究会の参加者の多くが日本ゲノム微生物学会に入会しております。また、日本ゲノム微生物学会若手賞や年会のポスター賞・優秀発表賞等で顕彰される会員も多く輩出しており、本若手の会の活動は日本ゲノム微生物学会の発展の一助となっております（項目3参照）。

2019年までは、毎年およそ25名以上の参加があり、さらに以前にはより多くの参加がありました。しかし、2020年、2021年とコロナ禍により開催を中止した影響もあり、一時的に参加者は減少しました。ですが、2024年度には参加者数は回復し29名の参加がありました。また、これまでに参加のなかった新しい研究室所属の学生参加者や、企業・公益財団法人からの参加者も見られました。今後も広く門戸を開いて学生参加者を数多く募り、微生物のゲノム科学研究へと惹きつけていくことで、本若手の会の活動の価値を高めていきたいと考えております。

しかし、学生の参加者が増えたことは喜ばしい一方で、近年の物価上昇の影響もあり、主に学生参加者の参加費（交通費・宿泊費）補助への出費が増えております。詳細は項目4にて述べますが、助成団体からの資金獲得、支出の見直し、繰越金の活用等により学生参加者の負担を抑えるよう務めておりますが、収支としては赤字となっております。今後も本若手の会の活動を継続・発展させることは、日本ゲノム微生物学会の更なる発展に重要であると考えられます。つきましては、本若手の会世話人の総意として、本若手の会の活動に対する日本ゲノム微生物学会からの援助金の見直しをお願い申し上げます。

3. 近年の若手の会の活動状況と本会およびゲノム微生物学分野への貢献

- 宿泊型研究会の開催(2018, 2019, 2022, 2023, 2024年度)
  平均参加者数:22名（3若手の会合同開催の2018年度は除く）

過去5回の参加者のうち
本会の会員数:40名
ポスター賞・優秀発表賞受賞者:11名
若手賞受賞者:9名

- 日本微生物生態学会2024年度広島大会においてシンポジウム開催
  コンビーナ:富永 賢人(責任者)、前田 海成、黒川 真臣、原 (和才) 沙和
  ご講演者:榎本 元 会員(東京農業大学)、倉田 竜明 会員(理研)、秋山 光市郎 会員(国立遺伝研)、尾崎 省吾 会員(九州大学)
  状況:約120名収容の会議室が満席になり、立ち見も発生した

- 若手の会Discordサーバー開設とオンラインセミナー(2024年度)
  発起人:富永 賢人
  目的:若手微生物研究者のオンラインでの交流の場の提供
  参加者数:42名
  活動内容:参加者自己紹介、若手の会の活動の宣伝、オンラインセミナーの開催(2回)

- ゲノ微年表(ゲノム微生物学に関連する成果等の年表)の作成 (現在進行中)
  コアメンバー:黒川 真臣、富永 賢人、西野 聡
  URL:
  https://sites.google.com/view/genobiwakate/%E3%82%B2%E3%83%8E%E3%83%93%E5%B9%B4%E8%A1%A8?authuser=0

4. 2024年度宿泊型研究会の収支状況 (補助に関連する部分のみ抜粋)

- 収支概要

収入	(万円)
本会からの補助	10
公益財団法人中辻創智社	25
参加費・懇親会費	2.7
収入計 (a)	37.7

支出	(万円)
研究会会場・設備費	13.2
食料・消耗品等	5.4
招待費	6
上記計 (b)	24.6
参加補助 (c)	17.7
支出計(b+c)	42.3
収入-支出 (a-(b+c))	-4.6
2024 年度繰越金残額	15.1

・ 参加補助に関して

若手の会世話人会として、遠方の学生であっても対面で参加する機会を与えたいという考えがあり、希望する学生には交通費の全額補助を出したいと考えております。その場合には、2024年度参加者をもとに計算すると、交通費補助は19.8 万円 (+ 2.1 万円)の支出となります。また、開催地・施設の選定により変動はしますが、宿泊費等も高騰しているため、学生が私費で払う分を減らしたいとも考えております。上記補助に加え、希望者(11名)に例えば3000円の参加費(宿泊費込)補助をおこなうと交通費＋参加費補助は23.1万円 (+ 5.4 万円)となります。この補助を実施した場合には、およそ10万円の赤字が発生します。

日本ゲノム微生物学会名誉会員推薦状

推薦者：　佐藤　修正
東北大学大学院生命科学研究科・教授
shusei.sato.c1@tohoku.ac.jp

名誉会員候補者：　田畑　哲之
公益財団法人かずさDNA研究所副理事長・所長
tabata@kazusa.or.jp

候補者略歴

1977年　神戸大学理学部生物学科卒業
1979年　京都大学大学院理学研究科博士前期課程修了
1983年　理学博士（京都大学）
1983年　カリフォルニア大学サンディエゴ校 博士研究員
1985年　京都大学化学研究所 助手
1987年　名古屋大学理学部 助手
1993年　名古屋大学理学部助 教授
1994年　財団法人かずさディー・エヌ・エー研究所 主席研究員
1999年　財団法人かずさディー・エヌ・エー研究所 植物遺伝子研究部 部長
2005年　財団法人かずさディー・エヌ・エー研究所 副所長
2013年　公益財団法人かずさDNA研究所 所長

推薦理由

田畑哲之会員は微生物および植物ゲノム研究の分野を開拓し、長年にわたりゲノム情報の活用基盤を提供することで研究コミュニティを活性化してきました。微生物ゲノム研究においては、ラン藻 *Synechocystis* sp. PCC 6803 の全ゲノム解読を 1996 年に発表しました。これは全ゲノム解読としては世界で 3 番目、独立栄養生物としては世界初の成果でした。その後も、性質の異なる 3 種類のラン藻や、3 種類の根粒菌、10 種の植物内生菌の全ゲノム解読するとともに、解読したゲノム情報の活用を目的としたデータベース整備や、YTH ライブラリなどの研究リソースの整備を行い、研究コミュニティに提供してきました。

日本ゲノム微生物学会においては、学会の設立につながることになるワークショップ「微生物ゲノム研究のフロンティア」を 1999 年から 8 年間かずさアカデミアホールで開催するとともに、幹事（第 1 期）、評議員（第 2 期、第 3 期）としても本学会の発展のための礎の構築に尽力されました。

以上のように田畑哲之会員の微生物ゲノム研究と日本ゲノム微生物学会に対する貢献は顕著なものであり、日本ゲノム微生物学会名誉会員にふさわしい業績と活動歴を有していると考えここに推薦いたします。

日本ゲノム微生物学会名誉会員推薦状

推薦者：　小椋義俊
久留米大学・医学部・感染医学講座・教授
y_ogura@kurume-u.ac.jp

名誉会員候補者：　林　哲也
九州大学・名誉教授
hayashi.tetsuya.235@m.kyushu-u.ac.jp

候補者略歴

1958 年　長野県生まれ
1984 年　信州大学医学部医学科卒業
1984 年　信州大学 医学部 細菌学講座　助手
1993 年　信州大学 医学部 細菌学講座　講師
1993 年　Alexander von Humboldt 財団　奨学生（ドイツ連邦動物ウイルス病研究所）
1996 年　信州大学 医学部 細菌学講座　助教授
2000 年　宮崎医科大学 医学部 微生物学講座　教授
2015 年　九州大学 大学院医学研究院 細菌学分野　教授
2024 年　九州大学 大学院医学研究院 細菌学分野　名誉教授

推薦理由

林哲也博士は、医学部を卒業後に緑膿菌のサイトトキシンに関する研究で医学博士を取得されました。その後は、細菌のゲノム研究に逸早く取り組み、大腸菌O157:H7堺株のゲノム解読を始め、様々な細菌のゲノム研究において多大な成果を挙げられています。また、未来開拓事業「ゲノム微生物学」(H8-H16)、特定領域「ゲノム特定」(H12-H21)、新学術・3分野支援活動「ゲノム支援/先進ゲノム支援」(H22-R5) では班員を努め、継続して細菌ゲノム研究の普及、底上げ、若手育成に尽力されています。本学会の会員に対しても、これらの事業や個別の共同研究によりゲノム研究の支援を続け、多数の共著論文を発表しておられます。さらに、林博士は、本学会の発起人の一人であり、会長（第四期)、幹事（第一期・第二期)、評議員議長（第六期)、評議員（第三期）を歴任され、学会運営にも大きく貢献してこられました。
以上より、日本ゲノム微生物学会名誉会員にふさわしい業績と活動歴を有していると考えここに推薦する。

2025年度収支予算書

資料6

2025年1月1日～12月31日

日本ゲノム微生物学会

収入の部　　（単位：円）

費目	2024年度決算額	2025年度予算額	予算額-決算額	備考	備考2
1. 会費収入	1,711,000	1,840,000	129,000		
一般会員	1,325,000	1,500,000	175,000	300名×¥5,000	会員数333名納入率90%で計算。
学生会員	70,000	100,000	30,000	100名×¥1,000	会員数166名納入率60%で計算。
賛助会員	240,000	210,000	-30,000	7団体7口×¥30,000	会員数7団体納入率100%で計算。
機関会員	30,000	30,000	0	1機関×¥30,000	会員数1団体納入率100%で計算。
前受金	46,000	0	-46,000		
2. 雑収入	1,358,547	150	-1,358,397		
利息	151	150	-1		
その他	1,358,396	0	-1,358,396		2024年度決算の1,358,396円は17回18回年会の残金
当期収入合計	3,069,547	1,840,150	-1,229,397		
前年度繰越金	5,500,423	6,521,321	1,020,898		
本年度収入合計	8,569,970	8,361,471	-208,499		

支出の部

費目	2024年度決算額	2025年度予算額	予算額-決算額	備考	備考2
1. 事業費	1,160,359	1,990,000	829,641		
年会援助金	1,000,000	1,500,000	500,000	19回かずさ年会援助金	
研究奨励賞経費	46,970	60,000	13,030	賞状・記念品代、選考委員会開催経費	
若手の会援助金	100,000	100,000	0		
会報発行費	10,989	30,000	19,011		
男女共同参画費用	2,400	200,000	197,600	託児サポート費用、男女共同参画イベント費用等	
HP作成費	0	100,000	100,000		
評議員選挙費用	0	0	0		3年に一度実施（次回2026年）
2. 管理費	888,290	910,170	21,880		
事務委託費	483,120	483,120	0		
会議費	8,890	20,000	11,110	評議員会・総会開催経費	
HP管理費	292,050	292,050	0	ドメイン管理費、HP更新管理費	
一般管理費　会費督促費	5,916	115,000	109,084		
旅費	81,836	10,000	-71,836		
通信費①（年会用事務局通信費）	0	90,000	90,000		
通信費②（学会事務局通信費）	2,080	5,000	2,920		
消耗品費	3,673	5,000	1,327		
振込手数料	10,725	5,000	-5,725		
3. 予備費	0	100,000	100,000		
その他	0	100,000	100,000		
当期支出合計	2,048,649	3,000,170	951,521		
次年度繰越金	6,521,321	5,361,301	-1,160,020		
本年度支出合計	8,569,970	8,361,471	-208,499		

日本ゲノム微生物学会の研究発表に関する指針（案）

本学会の重要な目的の一つは、会員が未発表データも含めた最新の研究成果を自由闊達に語り合い、議論し、楽しむことである。この目的を達成するため、研究発表に関する以下の指針を定める。

1. 発表された生データについて、発表者の承諾なしに保存（画面キャプチャを含む）、または、撮影、録音、録画、再配布、研究倫理に背く扱いをすることは禁止する。
2. 発表に際しては、研究の核心となる分子名、方法、理論、アイディアなどを伏せて発表することは、できるかぎり避ける。
3. 特許申請などに関わる情報の取り扱いは、発表者の自己責任とする。
4. 発表要旨は公知の技術情報として取り扱われる。
5. 年会発表において利益相反に該当する状況がある場合、発表者はその旨を開示 する。

資料 8

令和 7 年 3 月 XX 日

関係各位

日本ゲノム微生物学会
会長 大島 拓 印

国立遺伝学研究所における NBRP 大腸菌・枯草菌分譲事業継続のお願い（要望）

日本ゲノム微生物学会は、微生物科学に関する基礎から応用にわたる約 500 名の幅広い研究分野の研究者が集い、研究成果の発表や最新の実験手法、多様な研究リソースの情報交換を通じて、日本のゲノム微生物研究の発展と、それに欠かせない若手研究者の育成を目指しています。同時に、21 世紀にふさわしい微生物研究の推進に向けた方策を提言することも、当学会の重要な使命としています。

大腸菌と枯草菌は、分子生物学、ゲノム科学、合成生物学の黎明期から実験材料として使用され、多様な実験に用いられてきました。その中で、これまで構築された様々な遺伝子改変株や、網羅的な遺伝子発現・破壊ライブラリー、様々なプラスミド、あるいは合成生物学で用いられる多様な遺伝子改変システムは、大腸菌、枯草菌の研究者のみでなく、真核生物の研究者も含めた多くの研究者にとって不可欠なものになっています。しかし、以前は組織だった分与のシステムがなく、研究者は個人的な伝手で時間と手間をかけ、それぞれのリソースを手に入れていました。しかしながら、遺伝学研究所において NBRP 大腸菌・枯草菌分譲事業が実施されるようになり、研究者は、自分たちの研究に必要なリソースの情報に簡便にアクセスでき、それを利用することで、よりスムーズに、多様な研究が実施できるようになっています。とくに最近では、他の国際的な分譲機関の維持が困難になってきていることもあり、国立遺伝学研究所における NBRP 大腸菌・枯草菌分譲事業は、国際的にもユニークな、極めて重要な事業になっています。

遺伝学研究所の NBRP 大腸菌・枯草菌分譲事業の特徴は、単純にリソースを管理、分譲するだけでなく、ゲノム科学や分子生物学、学生生物学、情報科学に精通した研究者が、最新の研究に必要なリソースをコレクションし、実際に研究に使用してその有用性を検証し、それらの情報をデータベースとして蓄積し、研究者が利用しやすい形で分譲しているところにあります。そのおかげで、大腸菌や枯草菌に精通していない研究者であっても、自分たちの研究に有用な菌株を見つけ出し、分譲を希望することができます。その結果、多くの労力が注がれて作成されたリソースが、より多くの研究者によって、有効に活用されるようになっています。実際に、NBRP 大腸菌・枯草菌分譲事業によって分譲された菌株や遺伝子破壊ライブラリーは、国内外を問わず、多くの研究者の最新の研究に使用されており、評価の高いジャーナルに掲載された多くの論文に引用されています。また、日本ゲノム微生物学会の研究者の中でも、特に広い研究ネットワークや過去に開発されたリソースの知識を十分に持たない若手の研究者にとって、 NBRP 大腸菌・枯草菌分譲事業を通して分与される研究リソースとその情報は、研究を進める上で、必要不可欠なものになっています。

以上の観点から、NBRP 大腸菌・枯草菌分譲事業が、現在の形で今後も継続されることは、本学会に所属する研究者にとっても、また本学会員以外の様々な研究者にとっても極めて重要だと考えられます。しかしながら、多様なリソースの収集、データベースとのリンク、そして分譲を現在の高いレベルで維持・継続することは、最新の分子生物学・ゲノム科学・情報科学の基盤、そして、これまでの分譲事業のノウハウを持つ国立遺伝学研究所以外の施設で実施することは難しいと考えます。その一方で、国立遺伝学研究所に大きな負担を押し付けるだけでは、このような体制を維持し続けることは難しいであろうとも考えております。積極的にそのリソースを利用し、価値の高い研究を進めると同時に、新たな解析システム、ライブラリーを開発した場合には、それを積極的に寄託して分譲事業の価値を高めることで、本学会も当事者として国立遺伝学研究所の評価を高めることに貢献していきたいと

考えています。
以上の点から、日本ゲノム微生物学会として、今後も国立遺伝学研究所における NBRP 大腸菌・枯草菌分譲事業の継続をお願いいたします。
なお、本要望書は日本ゲノム微生物学会評議員会議長および幹事会の賛同を得て提出するものであることを、併せて申し添えます。

ゲノム微生物学会
関係の先生　各位

JGAM（Journal of General and Applied Microbiology）は昭和 28 年、坂口謹一郎先生が東京大学に応用微生物研究所を設立されたのに併せ、それまで国内になかった微生物学分野の英文誌として創刊されています。さらにその出版の経理を賄うため、坂口先生の私財による坂口基金をベースに、さらに関係企業からの毎年の会費支援が集められ、財団法人：応用微生物学研究奨励会が作られて JGAM 出版を担うようになりました。その後、国内の学術誌出版のサポートを目的に、科研費の中に学術誌出版経費が割り当てられましたので、JGAM 出版の経費の多くはその科研費から支出されるようになります。このため当時は、その分の奨励会の経費は出版事業ではなく、応用微生物研究所の様々な学術活動のサポートに用いられていました。
応用微生物学研究所はその後、1994 年に分子細胞生物学研究所に改組され、オリジナルの微生物学の研究所の性格は薄れていきます。さらに分子細胞生物学研究所が現在の定量生物学研究所に再編されることになった経緯については先生方にもご存じの方は多いかと思います。この間、JGAM が置かれた状況についてここで申し上げることは致しませんが、私の存じ上げる範囲では杉山先生、横田先生、依田先生が Journal の存続、発展に尽力され、2007 年からは田中（筆者）が編集長を拝命して今に至りました。当初からの経緯としては、

1）　科研費の審査方針の変更により外部からのサポートがなくなり、その後は会員企業からの会費により出版することになりました。
2）　2013 年に応微研奨励会の公益法人化が認められ、公益財団法人：応用微生物学・分子細胞生物学研究奨励会となりました。
3）　基本的な雑誌の電子化を進め、PubMed などのデータベースへの登録、ScholorOne による査読システムの導入、J-Stage によるオンライン公開を実現したこと。さらに昨年からは正式な Open Access Journal として認定されています。
4）　Open Access 誌としては例外的ですが、JGAM は投稿から掲載まで基本的に著者への経費負担は求めず、奨励会の経費だけでの出版を実現しています。基本的には無料ですが、一定のページ制限を設け、超過ページ、カラーページ掲載では著者に負担を求めています。
5）　現状では印刷・製本した冊子体を年に 6 冊発刊しています。また、年に一冊、ご希望があった場合には特集号の企画もしてきました（これまでシアノバクテリア、枯草菌、Thermus の特集号を発刊）。各号冊子の表紙は、ご協力いただいているデザイナーさんのご好意によりレイアウト、著者から提案の題材をカラー印刷で提供しています（無料）。

などを挙げておきます。これまで、国内の関連分野の先生方からは変わらぬご支援をいただいて出版を継続してきました。特に、学位関係で急ぐ場合の Rapid Track などでは多くのお役に立ててきたこともあると思います。

これまで皆様のご協力のもと、可能な改善をはかりつつ現在に至っていますが、今後の課題として以下の２点を議論しています。

１）JGAM 論文の質的向上に向けて
少しずつクオリティの高い論文は増えていますが、それでも現状の IF は１点台の中頃であり、一進一退しています。これまで他の学協会との連携は全くとっておらず、それにしては努力しているという意見もありますが、何らかの施作は必要です。一定数の投稿論文は海外から来ていますが、アジア近隣が中心。世界的には知名度は低いままです。現状での編集委員は国内の研究者だけであり、今後の国際化は必須です。

２）JGAM の継続性について
田中が編集をお引き受けした時期に編集委員の代替りを進めましたが、現在は退官も近い先生方が増えてきており、そろそろ対応が必要です。また、出版の経費も会員企業様に支えられてきましたが、このままの体制が今後とも継続いただける保証は特にありませんので将来計画は必要です。

ある種の高齢化、少子化は国内の微生物系（には限りませんが）学協会には今後共通の問題となると思われます。そのような状況からも、今後は関連の組織が継続のため協力的に活動していくことは重要と考えます。また、質的な向上のためにも学協会様との連携はもちろん重要です。JGAM としましても、比較的コンセプトを共有するゲノム微生物学様との今後の協力を模索させていただければと考え、まずはこのような資料を書かせていただいた次第です。

以上のような状況でありますが、編集をお引き受けしている立場からは今後とも JGAM を継続・発展させることが国内の微生物学のさらなる発展につながると信じております。どうぞ、貴学会におかれましても JGAM との協力につきご議論いただけますと幸いです。

2025 年 3 月
JGAM 編集委員長
田中　寛

第18回日本ゲノム微生物学会年会収支報告書

会計期間：2024/01/01～2024/12/31

収入の部	金額	備考
1. 参加費等収入	398,820	参加費・弁当代・バス代・エクスカーション代含む
2. 展示収入	1,485,000	
3. 年会援助金	1,000,000	
4. 利息	107	
収入合計	**2,883,927**	

支出の部	金額	備考
1. 会場費	832,292	
2. バスチャーター費	581,900	
3. エクスカーション費	70,600	
4. 講演謝金	22,274	
5. 交通費	25,634	
6. アルバイト代	174,000	
7. 弁当代	76,152	
8. 消耗品費	139,011	
9. 振込手数料その他	5,292	
10. 業務委託費用	187,000	
支出合計	**2,114,155**	

収支差額	**769,772**	

上記 第18回年会収支報告書の監査の結果、適正であると認めます。

2024年12月31日

資料 11

令和 6 年 11 月 13 日

関係各位

日本ゲノム微生物学会
会長　大島　拓　　印

共同利用・共同研究拠点「生物資源ゲノム解析研究拠点」の認定について（要望）

認定されることを要望する施設：東京農業大学　生物資源ゲノム解析センター

日本ゲノム微生物学会は、微生物科学に関する基礎から応用にわたる幅広い研究分野の研究者が集い､研究成果の発表や情報交換を通じて交流を深める場を提供することにより、日本のゲノム微生物研究のさらなる発展と若手研究者の育成を図ることを目指しています。また、21 世紀にふさわしい日本の微生物研究の推進に向けた方策を提言することも、当学会の重要な使命としています。

東京農業大学生物資源ゲノム解析センターは、次世代シーケンサーの早期導入により、ゲノム解析技術の活用促進を目指す共同利用・共同研究施設としての役割を担ってきました。農学分野を中心に他機関との共同研究を活発に推進し、生物資源の開発と解析に貢献しています。また、微生物分野においても、モデル微生物、実用微生物、環境微生物に関する先駆的な研究に取り組み、微生物の基礎研究や分子育種に有用な情報を提供してきました。

本学会に参加する研究者にとって、次世代シーケンサーを用いたゲノムの構造および機能情報の取得は、微生物の多様な生命現象の解明や応用技術の開発に不可欠な要素です。次世代シーケンサーによる解析の必要性は増大しており、東京農業大学生物資源ゲノム解析センターは、これまで数多くの成果を上げてきました。今後も、当センターが共同利用・共同研究の拠点として安定的に推進されることは、本学会における当該研究分野の進展に大きく貢献すると期待されます。

以上の観点から、生物資源ゲノム解析に関する共同利用・共同研究拠点として本施設が認定されることは、日本における微生物ゲノム解析とバイオものづくりに大きく貢献する有用微生物の開発の推進において、非常に重要な意義を持つものと考えます。日本ゲノム微生物学会会長として、東京農業大学生物資源ゲノム解析センターの認定を強く要望致します。

なお、本要望書は日本ゲノム微生物学会評議員会議長および幹事会の賛同を得て提出するものであることを、併せて申し添えます。

2024年末2年間滞納　退会候補者

	会員番号	氏名	会員種別	所属機関
1	SG-1505	石崎　楓佳	学生	東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科
2	SG-1431	井谷　直登	学生	九州大学薬学部創薬科学科分子生物薬学分野
3	SG-1510	一戸　謙太	学生	立教大学大学院 理学研究科 生命理学専攻 末次研究室
4	SG-1340	井手　圭吾	学生	早稲田大学大学院　先進理工学研究科　生命医科学専攻
5	SG-1503	今村　優香	学生	東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科
6	SG-1450	小笠原　大輔	学生	東京電機大学大学院工学研究科 物質工学専攻
7	SG-1455	岡島　清志郎	学生	信州大学大学院総合理工学研究科繊維学専攻
8	SG-1422	長田　直大	学生	京都大学大学院　人間環境学研究科
9	SG-1198	海津　一成	一般	国立研究開発法人理化学研究所生命システム研究センター
10	SG-1415	柏木　さと	学生	東京理科大学理学研究科科学教育専攻
11	SG-1475	勝　保奈実	学生	東北大学
12	SG-0067	金子　淳	一般	東北大学大学院農学研究科応用微生物学分野
13	SG-1434	金子　真之	学生	東京工業大学生命理工学院
14	SG-0315	兼崎　友	一般	静岡大学グリーン科学技術研究所
15	SG-1493	加納　巧希	学生	立教大学　理学研究科　生命理学専攻
16	SG-1347	木田　裕哉	学生	筑波大学生命環境科学研究科生物科学専攻
17	SG-1471	黄　宇翔	学生	東京大学理学系研究科
18	SG-1316	小川　雅人	学生	早稲田大学
19	SG-1453	小谷野　裕	学生	信州大学大学院総合理工学研究科
20	SG-1456	小山　拓也	学生	立教大学院
21	SG-1506	坂元　和貴	学生	東京農業大学
22	SG-1220	迫田　翠	学生	東京農工大学大学院連合農学研究科
23	SG-1507	佐藤　瑞穂	学生	東京農業大学大学院生命科学研究科バイオサイエンス専攻
24	SG-1341	實野　佳奈	学生	早稲田大学先進理工生命医科学専修
25	SG-1423	清水　雄治	学生	法政大学生命科学部
26	SG-1419	菅野　貴史	学生	法政大学生命科学部　生命機能学科
27	SG-1489	鈴木　誉保	一般	東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻
28	SG-0877	鈴木　義之	一般	長岡技術科学大学生物系
29	SG-1484	関口　 英	学生	石川県立大学
30	SG-1463	蓼沼　崇	一般	横河電機株式会社
31	SG-1451	積田　悠平	学生	東京電機大学大学院物質工学専攻
32	SG-0047	戸邊　亨	一般	大阪大学大学院医学系研究科
33	SG-0595	西森　敬	一般	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所
34	SG-1465	西山　知里	学生	石川県立大学大学院生物資源環境学研究科
35	SG-1487	藤野　祐紀子	学生	京都大学薬学部薬科学科
36	SG-0423	眞板　寛子	一般	東北大学大学院生命科学研究科
37	SG-1502	町田　颯太郎	学生	東京農業大学生命科学研究科　バイオサイエンス専攻
38	SG-1449	牟田　幹悠	学生	東京大学大学院薬学系研究科
39	SG-1494	武藤　駿太郎	学生	立教大学理学研究科
40	SG-0694	矢野　大和	一般	東北大学大学院生命科学研究科▪
41	SG-1482	矢野　文悟	学生	九州大学大学院医学研究院細菌学分野
42	SG-1508	湯木　就久	学生	東京農業大学
43	SG-1420	盧　楚元	学生	九州大学薬学府分子生物薬学分野
44	SG-1496	渡邊　あおい	学生	慶應義塾大学　政策・メディア研究科